

# 育成だより

## 第110号

【発行】大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

## 平成29年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは4つです。

### 少年の主張大会開催 (敬称略)

日時：平成29年11月11日(土)

発表者：大堰小学校 草場 玲良・松川 翔一  
 本郷小学校 稲田 璃央・古賀 奏  
 大刀洗小学校 平田 翔・佐々木穂香  
 菊池小学校 山本 大暉・柳瀬 未羽  
 大刀洗中学校 1年 平戸すみれ  
 2年 吉田 晃輝  
 3年 平田 棕香

【(4)～(12)ページに発表順全文掲載】



### 大刀洗町青少年育成町民会議講演会の開催

日時：平成30年3月10日(土)

会場：大刀洗ドリームセンター展示ホール

講師：矢野 大和 氏

演題：「子どもと一緒に  
 おおいに笑おう！」

【(2)～(3)ページに内容を掲載】



### 「家庭の日」行事共催

「まなび講座」とのコラボレーション企画

第1回 「おこづかい帳をつけてみよう」

平成29年7月16日(日)

第2回 「つまみ細工づくり」

平成29年11月25日(土)

第3回 「やってみよう！お片付け」

平成30年1月28日(日)

第4回 「レジンでつくるアクセサリーチャーム」

平成30年3月17日(土)

【(15)～(16)ページに関連記事掲載】



### 「育成だより」第110号発行

(広報委員会にて編集して年1回)

# 『子どもと一緒に おいに笑おう！』

矢野 大和

## 親が笑っていることで 子どもも安心して過ごせる

大人の考え方がプラス思考なのか・ネガティブ思考なのか  
子どもの思想に影響する  
大人の姿が子どもの見本になる

## あなたが必要だという メッセージ

子どもでも、大人でも、あなたが必要だといわれることは  
生きていくうえでのパワーにつながる

## 人間関係と言葉

仲のいい関係で発した発言と、関係性が薄い状態で発せられた  
言葉には全然別の意味が発生する  
→ パワハラ・セクハラ・いじめなど

## 個性と我慢

個性を主張するのは、基本教育が出来たうえでのことである  
最初から個性ばかりを主張することで、協調性を失っている  
のではないか  
家庭教育は大事である  
大人の模範意識・コミュニケーション・信頼関係

自分の力でどうにかなることと、  
どうにもならないこと  
遺伝等はどうしようもないが、  
運命(人生)は変えられる



講師 矢野 大和(やの たいわ)

昭和31年、大分県宇目町(現佐伯市)の鷹鳥屋神社の宮司の長男として生まれる。宇目町役場に勤め、教育委員会で生涯学習の仕事に長く携わる。平成7年に、道の駅「うめ」の店長となり、イノシシラーメンで成功を収め、黒字経営に貢献し、平成13年同町観光大使となる。

平成19年50歳で佐伯市役所を退職後、平成23年より「おおいた観光特使」を務める。高校時代に始めた落語が嵩じ、話の中に笑いを入れることから「講演」を「口演」と表現している。

現在、同神社の宮司を務めながら、ここ10年間、全国で年間400回を超える「口演」を行なっている。

- おおいた観光特使
- 大分合同新聞文化教室 講師
- 大分県人権問題講師団 講師
- 佐伯市宇目 鷹鳥屋神社 宮司
- 県南落語組合 会長

軽妙な口調で楽しく明るい「口演」で参加者を笑いの渦に引き込みました。子どもの頃の自身のお話や、お子さんとのやりとりを交えて、家庭教育のあり方や現代教育の難しさ、危険性についても話がありましたが、とにかく笑いの絶えない「口演」会でした。

急遽こしらえられた「高座」では、特別ゲストに来ていただいた、林家あずみさんの三味線漫談と、林家なな子さんの落語も披露され、あっというまに時間が過ぎていきました。



## 参加者の感想・意見

- 家庭教育（親の姿勢）の大切さが分かりました。基礎教育は家庭にあり。
- ルールを守る。及び我慢の大切さ。
- お互いの信頼関係があるかないかで感じ方受け取り方が変わると感じた。笑いがいかに大切かとも思いました。笑顔でつながる世の中が大事だと改めて思いました。
- 子どもをどう育てたいか。親がちゃんと考えて家庭教育がまず一番大切だと思いました。
- 親を育てる。
- 親の子育て力が大事だと思いました。
- 学校、家庭、地域の連携が大切。
- 親の意識が大切。
- 相互理解と関係性の深化。
- コミュニケーションの大切さ。
- 地域全体が子育てや子の成長。
- 育成を大事に核としてまとまること。
- 家庭の教育力が低下していますので、親の教育が大切だと思います。
- 他人の子どもも自分の子どもと思って接すること。
- 大人の模範意識をきちんと持つことが大事だと感じました。
- 考えること。きちんと大人が教える。
- 大人は、親だけじゃなく、地域の人や学校の全ての大人のこと。
- 話を聞くこと。とても良い講演でした。今、子どもたちは人の話を聞く機会が少ないのではないかと思います。話しを聞くことで会話につながり、自分で考えることにつながっていくのではないのでしょうか？

- 久々に何も考えずに楽しむことが出来ました。笑うことって本当に大切なんだなって思いました。大人が元気だと子どもも元気なんだと本当に思いました。
- 笑顔になること前向きになることで児童に教育が入りやすいと感じた。
- 1日1回笑いがある家庭に、家庭教育の重大さ大切さを学びました。
- これまでにない、とても楽しくためになる講演会でした。三味線漫談、落語と矢野先生の話術に引き込まれました。あっという間の時間でした。
- 一つ一つごもっとも。一つ一つ深く感じ入りました。自分がやってきたこと、考えに自信ももてました。
- あなたが必要だという気持ちのパワーになるというのが心に響きました。必要としている、また、されている気分を知ること。子ども達、祖父母、夫にもみんなに伝えていきたいと思います。
- 予想もしない内容で楽しませていただきました。
- 楽しく、いましめ、あり方、エネルギー、反省を感じました。
- 楽しさの中で育成会について思い起こされる言葉を聞かせていただきました。





# 少年の主張大会 「私からのメッセージ」



## ぼくを支えてくれた 言葉

菊池小学校  
6年 山本 大暉

「どんまいどんまい、切りかえていこう」

この言葉は、ぼくの支えとなった言葉です。

ぼくは、少年野球チームに入っています。七月に、野球の大会がありました。相手は、強さのチーム。そしてぼくは、ピッチャー。緊張していたぼくは、ボールを投げてなかなか真ん中に入りませんでした。

「ストライクが入らない」

「ボールがまっすぐに行かない」

あせりと緊張で、ボールを投げる手には汗がじわりと出ていました。そして、とうとうフォアボールになってしまいました。一塁ランナーは二塁へ、バッターは一塁へと進みました。次の打者がぼくの前に立ちました。ぼくは気持ちを切りかえたつもりでした。しかし、投げたボールは、相手のバットに見事に当たり、ぼくの頭上をはるかにこえるホームランになってしまったのです。三人がホームをふみ、三点が相手のチームに入りました。ぼくはがっくりと落ち込んでしまいました。しかし、その時、ぼくの後

ろから

「どんまいどんまい、切りかえていこう」

この言葉が、聞こえてきました。ぼくの後ろで守ってくれている仲間からの声です。ぼくの投げたボールのせいで、三点も入れられたのに、ぼくの仲間は、この言葉をかけてくれたのです。仲間からの声に、ぼくの心は少しだけ軽くなりました。大きく深呼吸をして、ぼくの後ろで守ってくれている仲間の言葉を何度も心の中でくり返しました。

「どんまいどんまい、切りかえていこう」

一球ボールを投げるたびに、この仲間からの声を、もう一度、繰り返しました。すると、だんだんと不安だった心が、

「絶対アウトにするぞ」

という強い自信へと変わっていききました。ワンアウト、ツーアウト、スリーアウト。ぼくは、この後を0点におさえることができたのです。試合の結果は、負けてしまったけど、ぼくにとって心に残る、仲間の言葉に支えられた試合となりました。

二か月後の野球の試合、ぼくは、ファースト

を守ることになりました。

「いつでも、ボール、とんでこい」

「絶対後ろにボールをそらさないぞ」

ぼくは、一塁で構えていました。しかし、ボールはとんできません。ピッチャーがフォアボールを出してしまっただけです。ピッチャーは、下を向き、落ち込んでいるように見えました。ぼくは、不安になりました。

「次は、入るかな」

「ぼくみたいに、ホームラン打たれるのじゃないかな」

ぼくが、経験したあの時の不安でいっぱいだった試合を思い出したのです。でも、その時、思わず声が出ていました。

「どんまいどんまい、切りかえていこう」

ぼくは、落ち込んでいる仲間を声をかけました。ぼくが、あの時、仲間にはげまされた時と同じように。

ぼくは、たくさんの仲間を支えられています。それは、野球の時だけではありません。学校の友達やクラスの友達と勉強している時も、遊んでいる時も、ずっと支えられています。ぼくが支えられた言葉を、ぼくもこの言葉で、仲間を支えていきたいと思っています。

「どんまいどんまい、切りかえていこう」



## 一人ひとりの力を 合わせて

大堰小学校  
6年 松川 翔一

「小さくても無力ではない。」

この言葉は、今年の初め、始業式で校長先生が話された言葉です。この言葉の意味について、ぼく自身は今まであまり考えたことがありませんでした。聞いたとき、その通りだなとは思っていただけ、自分自身の中に、そのことと強く結びつくような経験がなかったのです。しかし、一つ一つの力が小さくても、集まればやがて大きな力となり、無力なものではなくなるというその言葉が、今の自分にとっては、大きな意味をもつ言葉になりました。それは、その言葉の意味を強く実感するいくつかの出来事があった

からです。

その出来事とは、今年の七月、集中豪雨で大きな被害を受けた朝倉市にボランティアに行ったことです。なぜ、ボランティアに参加しようと思ったのかというと、災害の状況をニュースなどで目にしていたときに、ボランティアの活動が始まったことを知り、自分も何かやりたかったからです。父と共に現地に行った頃は、想像をはるかに越えた、荒れ果てた様子に、驚き、大きなショックを受けました。ここで僕は、指定された家の床下のどろかきや、どる運び、床板はずしなどの作業をしました。

「十五分ごとに休憩を入れながらやって下さい。」

と言われたので、「もつとできると思うんだけど。」と、初めは思っていました。しかし、いざやり始めてみると、思った以上の作業の大変さと夏の厳しい暑さで、休憩しなければとてももちません。十人ほどのボランティアが一生懸命一日やった結果、作業が終わったのは、わずか二部屋分ほどでした。でも、終わった後にお家の方から、

「本当にありがとうございます。これからまだまだ頑張って、早く元通りに生活できるようにします。」

と言っていたとき、自分にも少し役に立つことができたかなと思うことができました。小さいことかもしれませんが、このような一人ひとりの力が合わさって被災地の復興は進んでいくのだと感じました。

同じように、自分にとって身近な学校生活の中でも、一人ひとりの力を合わせた成果を感じた出来事がありました。ぼくの学校では、毎年

二学期になると「全校大縄チャレンジ」という取り組みを行っています。これは、クラスの友達と三分間の大縄八の字跳びに挑戦するというものです。一人の力で何百という記録をつくることはできませんが、仲間の力があれば、それも可能となるのです。

ぼくのクラスでは、十人の友達と三分間で三百回を超えることを目指し、頑張っていました。はじめは、思うように記録が伸びず、ただ焦るばかりでした。失敗した仲間を思わず責めてしまったこともあります。どうしたらよいか考えた結果、みんなで声を出して跳ぶりズムを合わせたり、失敗しても、

「ドンマイ!」

と声をかけて、すぐに気持ちを切りかえられるようにしたりしていくことにしました。そうして、だんだん心が一つにまとまってきたことを感じた時、ぼくたちはついに目標を越える三百二十一回という記録を出すことができました。このときぼくは、力を集めていく中で、みんなの思いも一つにすることが大きな力になっていくのだと強く感じたのでした。

みなさんの中には、「どうせ自分一人がやっただけ無駄なのだから、やめておこう。」と、なかなか積極的になることができない人もいるかもしれません。しかし、これまでの出来事の中で、自分が感じてきたことをふり返ると、決して無駄だということはないと思うのです。

たとえ子ども一人の小さな力であったとしても、その力が集まり、力も心も一つにすることで、きつとできることがあるはずで

す。これから、ぼくにも、自分一人の力の足りなさを感ずることがきつとあるだろうと思いま

す。でも、小さくても決して無力ではありません。このことを信じ、周りにいるたくさんの人たちと力と心を合わせ、いろんなことにチャレンジし続けます。



## 平和への第一歩

本郷小学校  
6年 稲田 璃央

「自利利他。」みなさん、この言葉の意味を知っていますか。「自分にとつてもよし、周りのみんなにとつてもよし」と言う考えです。

自分だけのことを考えたわがままでもなく、自分を犠牲にして周りのみんなのために尽くすのではないのです。世の中では、自分だけのことを考えたいじめや犯罪、そして、自分を大切にできずに苦しんでしまうような自分を犠牲にする出来事が起こっています。だから僕は、「自分にとつてもよし、周りのみんなにとつてもよし」と言う考えを大切にして問題を解決していくことが、みんなが仲良く平和に生活する第一歩であると考えます。

六年生の一学期に、「一年生と仲良くなる集會」を行いました。一度目は課題が多く見付かり、失敗に終わりました。その理由が、六年生ではなく一年生だけを優先した考えがあったことです。一年生は、

「遊び楽しかったよ。」

と言ってくれました。しかし、六年生からは違う感想が出ました。

「自分たちは楽しめただろうか。それで仲良く

なったと言えるのだろうか。」

僕は一年生だけのことを考え、自分達が笑顔になっただけでいいと思っていました。そこで、一年生も楽しんで、仲良くなれるものについて話し合いました。改善した二度目は成功しました。僕は、一年生のためだけでなく、自分たちも一緒に楽しめて笑顔になれるもの考えたからこそ、集会は成功したと考えます。つまり、「自利」、自分たちにとってもよしの考えが、自分を犠牲にしない大切な考えであることに気づかされました。

「利他」、周りのみんなにとってもよしの考えは、思いやりの心を思い浮かべると思いますが。この考えの大切さはよく耳にすることだと思えます。「利他」とはそれだけではないと強く実感したのが、運動会の応援練習です。五年生まで、僕は「自分が声を出しているから、それでいい。」と考えていました。だから、周りのみんなが声を出していなくても気にしていませんでした。そんな時、応援団長が六年生に「みんなをまとめて団結した応援にしたいので協力してほしいです。」

と話しました。その時、僕は自分だけの小さな達成感のためだけに行動していたことに気づかされました。応援団や下級生の達成感まで考えていませんでした。それから、下級生にも声を掛け、六年生を中心にみんなで応援を創りあげました。終わってみて、みんなの感想を聞くと、大きな達成感を得ていました。もちろん、僕もです。このことから、周りのみんなにとってもよしにもつながってくるのだと実感しました。

平和な世の中にするため、「自分にとっても

よし、周りのみんなにとってもよし」の考えを同時に持つことが大切だと考えます。「自分にとってもよし」の考えをもって行動すると、自分が笑顔になれます。自分を犠牲にせず、自分の喜びも同時に考えて行動することだと思えます。「周りのみんなにとってもよし」の考えをもつて行動すると、自分本位で人を傷つけないようになります。さらに、自分にとっての喜びにもつながると考えます。

まずは、僕と一緒に、「自分にとってもよし、周りにとってもよし」の考えをもって行動することに取り組んでいきませんか。もう一度言います。「自分にとってもよし、周りのみんなにとってもよし」の考えをもって行動することに取り組んでいきませんか。この二つの考えが、みんなが仲良く平和に生活する第一歩だと、僕は考えます。



## 大切な宝物

大洗小学校

6年 平田

翔

ぼくには、同級生の友達、年齢の違う友達、校区外の友達など、友達がたくさんいます。

みなさんも、たくさん友達がいますか。本当の友達とは、お互いに信頼し合い、互いの心が通じ合う人のことだと、ぼくは思っています。また、いっしょに笑って、いっしょに泣いて、同じ気持ちになれる人だと思っています。でも、いくら本当の友達といっても、言い合いをする

ことはありますよね。ぼくも経験があります。ぼくは、言い合いは、決して悪いことではなく、意味のあるものだと考えています。言い合いを通じて、友達との関係が深まっていくような気がするのです。そして、この言い合いで、相手の気持ちが深く分かる時もありました。言い合いをした翌日は、相手の気持ちが分かったため、いつもと違う晴れ晴れとした気持ちで友達に接することができました。ところで、「どうして言い合いで相手の気持ちが分かるのだろう。」と疑問に思う人も居るでしょう。それは、言い合いを通して自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちをより深く知るからだと思います。これは、意味のある言い合いなのです。自分の気持ちを伝えて相手に理解してもらおうことができず、同時に、相手の気持ちを深く理解できません。

このように、ぼくは、最近、友達について深く考えるようになり、ふと、「友達」という言葉の意味を調べたくなりました。辞書には「仲良く付き合っている人」と書かれていました。ぼくは、「仲良く」という言葉に奥深さを感じました。

ここで、ぼくの忘れられない体験を話したいと思います。あれは、3年生の時でした。ぼくが、職員室にお便りを取りに行った帰りのことです。同じ係の友達が、「何で勝手に行くの?。」

と言っていました。その友達は、ぼくと大の仲良しです。その友達と、お互いの言い分を出し合いました。友達は、「ぼくは、翔君と一緒に係の仕事をする、安心するんだ、だから、翔君と一緒に仕事をした



「いんだ。」  
と自分の気持ちをぼくに伝えてきました。ぼくは、友達に、

「ぼくは、仕事を忘れずにしたいから、気付いた時にすぐに仕事をしようと思っっているんだよ。」

と伝えました。最後には、お互いが納得することができました。ぼくは、このことを母に話しました。すると母は、

「翔、その友達は何、翔のことを頼りにしているから、勝手に行かないで、と言ったのよ。」とぼくに言いました。そこで、初めて友達の気持ちが分かりました。その友達が、ぼくのことを頼りにしてくれているということに気付いた時、うれしく思いました。ぼくのことをこんな必要としてくれる友達がいるんだと思いました。今でもその友達とは仲良くしています。このように、言い合いながら、思いや考えの「伝え合い」をすることによって、さらに人間関係が良くなるのです。

他にも、人間関係を良くするための方法はいろいろあると思いますが、みなさん、今、仲良くしている友達の顔を思い浮かべてみてください。そして、自分自身に問いかけてみるのです。「今、仲良しの友達に、自分の気持ちを伝えることができているかな」と。

本当の友達をつくるのは、自分自身なので。ぼくも、本当の友達を、これから全力でつくっていきます。本当の友達は、ぼくにとって「宝物」です。大切にしていきます。みなさんも、本当の友達をたくさんつくってください。



## かげで支えてくれた 仲間たち

菊池小学校  
6年 柳瀬 未羽

私には、かげで支えてくれる仲間がいます。そんな仲間が気づくことができたのは、私が、常に周りに耳を傾け、仲間の様子を感じ取れることを心がけるようになったからです。

そう心がけようと思ったきっかけは、菊池小学校で取り組んでいる長縄の練習でした。クラスのみんなでいつも取り組んでいる練習内容は、一分間、縄を走り抜けるように跳ぶことです。もう一つは、三分間跳んでカウントすることです。

でも、クラスで決めた方法なのに、最近練習へのやる気が出ません。なぜなら、練習でふざけてしまったり、跳ぶときに大切にしている「ハイ、ハイ。」というかけ声が聞こえなくなっていたりしたからです。だから、正直記録アップは難しいかもしれないと思っていました。

そして、本番当日。クラスの仲間三十二人で円陣を組みました。気合い十分です。でも私の心は、どこか不安でいっぱいでした。跳ぶ時も、いつもより縄のスピードが速く感じました。運動委員が

「二組が上手に跳んでいます」と、隣のクラスの様子を伝えると、一気にかけ声や縄の音が強くなりました。まるで、記録とではなく、隣のクラスと戦っているようでした。

た。

跳び終わると、手のふるえが止まりません。クラスの結果は、三百三十五回。目標の三百六十五回を超えることはできませんでした。

「次はがんばろう」

いつもの私なら、そう思えるのですが、その時は、次回の目標などもつことができませんでした。

「どうせ、無理なことかも」

どこか、心の整理がつかないままの私でした。でも、私は、練習を見直しました。かけ声、跳ぶ姿勢、参加態度など。一つずつを振り返っていたら、ふいに私にアドバイスしてくれる声があったことに気づいたので。私が跳ぶ姿勢がうまくいかなかったときに、

「卵の形を意識して」

や、縄に引つかかった時には、

「ドンマイ」

と声をかけてくれる仲間がいました。私は、この言葉とこの仲間とともに、これまで練習してきたと、胸を張って言えると思えました。練習中には、自分のことで精一杯で、仲間の大切な声に気づいていませんでした。自分の不安や心のモヤモヤから、周りのことばかり気になっていました。でも、仲間の言葉が、そと私の背中を押してくれていたんだと思いました。何気ない日々の中で、仲間が助けられていたので。

私は、長縄の経験を通して、チームの仲間が、自分のことをかげで支えてくれていることに気付きました。だからこそ、周りに耳を傾け、仲間の様子を感じ取ることが大切だと思います。

ます。そんな仲間が自分には、いることに気づくことができれば、きっと自分も友達に対して、そつとかけで支えてあげられるような存在になれる、そう信じています。自分が辛い時や、悲しい時は、自分のことだけで精一杯になつてしまうのですが、そんな時こそ、周りの声に耳を傾けることで、ふつと心が軽くなり、自分の辛さや悲しみから一步、前に踏み出す勇氣をもつことができるようになると思います。私には、そつとかけで支えてくれる仲間がいます。そんな支え合える仲間をずつと大切にしていきたいです。



### 家族の一員として

大堰小学校  
6年 草場

玲良

料理、洗濯、掃除、家事の種類を挙げればきりがありません。皆さんの家庭では、誰が中心となつて家事をこなしていますか。

私は、今まで、あまり手伝いをせず過ごしていました。習い事の送迎も母任せでした。

「れいら、手伝つて。」

と言われても、聞き流す事もありました。時々、父との「 Pasta 対決」で、料理を楽しむこともありましたが、そこには、家族の一員としてという意識は、あまりなかったように思います。

でも、今の私は少し違います。進んで料理をすることが増えました。習い事も、出来るだけ自転車でいきます。風呂掃除だけでなく、洗濯

物たたみも、自分の仕事に追加しました。

家事は、母親だけの仕事ではありません。家は、家族みんなが、進んで協力してやっていくものです。家事に対する私の考えは、アンビシャス広場の通学合宿を体験して変わりました。

「ただいま。」

「お帰りなさい。」

大堰交流センターでの通学合宿は、この言葉から始まります。学校から帰ってきたら、まずおやつです。おやつは、前の晩に担当の班が作ります。次に宿題をしますが、終わらなくても、十七時になると夕食作りです。材料が多かったり少なかったりして、買ひ物の難しさを感じました。先生方も来て下さつて、

「おいしいね。どの班が作ったと。」

等と言われ、もっと作りたいと強く思いました。自分の料理で、相手を喜ばせることの嬉しさを感じました。

夕食の片付けが終わつたら、もらい湯へ行きます。もらい湯から帰つてくると洗濯です。私はいつも母に洗濯をしてもらつていたので、洗濯機の使い方がわかりませんでした。友だちに教えてもらつて、干すことができました。

寝る前には夜の集いがあります。それまでに、洗濯も、宿題も、今日の出来事の記録も全て終わらせておかなければなりません。自分の仕事を自分でやり遂げなければ、みんなが困ります。自分一人の事でさえこんなに大変なのに、仕事をしながら家族五人の家事を日々行っている母の大変さを感じました。

通学合宿の朝は、ますます大忙しです。目覚めて、一瞬「ここ、どこだっけ。」と思う私

を、朝食作りや掃除が待ち受けています。

掃除担当の朝は、憩いの園全体を手分けして、はいたり拭いたりします。朝食ができるまでに終わらせなくてはいけません。

朝食担当の朝は、急いでエプロンをつけ、ご飯を炊き、卵を焼き、みそ汁を作ります。片付けも自分たちでします。干していた洗濯物も取り込みます。全部終わつたら登校です。

「いつてらっしゃい。」

とボランティアさんに見送られ、元気に出発です。

ボランティアさんに教えてもらいながら、友だちと協力し、自分のことは全て自分でする一週間を体験し、私は、とても変わりました。

今まで見ていたつもりだった母の姿が、改めて見えてきました。六時に起きて、五人分の朝食作り。家族の世話をし、保育園経由で仕事へ行きます。夕方は、保育園のお迎え、掃除、習い事の送迎、夕食の準備、片付け、妹の寝かしつけ、洗濯物たたみと、次々にこなす母。疲れて、妹と一緒に寝てしまうこともあります。はつと目を覚まし、

「お父さん、もうご飯食べた？」

と、いつも家族の事を気にかけています。

私は、自分にも何かできることはないかなと考えました。自分にできることで、母を少しでも楽にさせたいと思いました。そして、今まで以上に料理を手伝うことと、洗濯ものたたみを自分の仕事にしようと思いつきました。

私が今できる料理は、カレーやグラタンやみそ汁などです。私は料理が好きなので、もつといろいろ作つて、家族においしく食べてほしいと思つています。



洗濯物たたみは、母が一日の最後に行っている仕事です。これをわたしが受け持てば、母は、ゆつくりする時間が増えると思うのです。

家庭は、家族で作る小さな社会です。通学合宿で学んだように、家事は、家族が力を合わせ、分担して、毎日毎日終わらせていくものだと思います。そうすれば、そこには、「おいしかったよ。」や、「ありがとう。」の言葉が生まれると思います。

私の洗濯物たたみに母は気づき、「ありがとう。」と言ってくれました。わたしは、母のお手伝いではなく、自分の仕事として、これからも続けたいと思っています。私は、家族の一員として、できる仕事を増やしていきたいと思っています。皆さんも、家族の一員としての自分の姿を見つめてみてください。



## 誰もが笑える未来に 向かって

本郷小学校  
6年 古賀 奏

「みなさん、こんにちは。」

私は、このように笑顔であいさつをしています。私の笑顔でのスタートは、朝、家族への「おはよう。」から始まります。次に、登下校で地域の方々や先生方、友達にあいさつをします。また、ハイタッチあいさつ運動と、毎朝の職員室へのあいさつ運動にも取り組んでいます。家族は、

「あなたの笑顔で疲れがとよよ」と言ってくれます。下級生にも、あいさつ運動

が広がってきています。私の登校班の下級生が、私より大きな声であいさつをしている姿を見ることがあります。そんな時は、私まで嬉しくなります。地域の方々も

「その笑顔のあいさつで元気がでるよ。」と笑顔返してもらっています。笑顔であいさつすることで、学校全体、地域全体に笑顔が増えてきたように感じます。笑顔のあいさつは、笑顔を広げることにつながるのだと強く感じました。

私が笑顔であいさつすることを意識するようになったきっかけは、保育園の時、先生から言われた心に残っているこの一言です。

「あなたの笑顔は、人を幸せにするね。」それから、私は笑顔を大切にしてきました。だから、この笑顔を周りに広げるために、笑顔であいさつすることを心がけています。

でも、「つらい時や悩みがある時も笑顔でいることは難しいのではないか。」と考える人もいるかと思っています。確かにその通りだと思います。では、つらい時や悩みがある時はどうしたら笑顔になれるのでしょうか。私にもつらい時、悩みがある時はありました。友達と思いちがいがあ、大変つらい思いをしました。そんな時、母の勧めで友達に相談しました。すると友達は、笑顔で側にいてくれて励ましてくれました。時には真剣に話を聞いてくれたりしました。勇気もらい、そのおかげで、私は笑顔を取り戻していききました。ここに、自分がつらい時や悩みがある時、笑顔になるための方法があります。それは、相談することです。自分一人で解決しようとせず、周りの力を借りることで、もちろん逆の立場であれば、私は全力で励

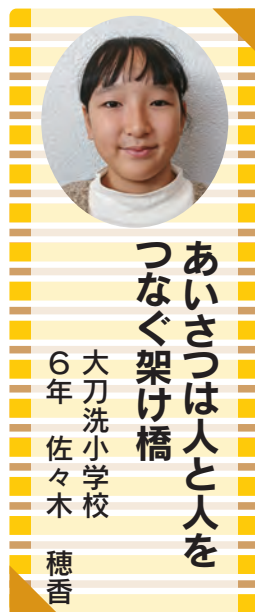
まします。また、今、周りにいる人達に感謝することの大切さにも気づきました。相談する前、友達が話を聞いてくれるか不安で、信頼しきっていませんでした。さらに、周りに信頼してくれる友達がいるのに、その友達だけでは満足していませんでした。今周りにいてくれる友達に目を向けていなかったのです。そのことから、今周りにあるものに目を向け、感謝をすることも大切だと思ようになりました。

誰もが笑える未来に向かって、私達にできることは、二つあると思っています。一つ目は、笑顔であいさつすること。自分自身も笑顔に、そして、周りに広がっていくと考えます。二つ目は、相談すること。自分一人で解決できない時は、今周りにいる人達を信頼し、力を借りることが大切だと思います。

まずは、私達と一緒に、笑顔であいさつすることに取り組んでいきませんか。

「みなさん、こんにちは。」  
こういう笑顔のあいさつを広げ、みんなの心を明るくしていくことが、誰もが笑える未来に向かう第一歩だと考えます。私は続けていきまると信じています。





**あいさつは人と人を  
つなぐ架け橋**

大刀洗小学校  
6年 佐々木 穂香

大刀洗小学校では、「おはようございます！」「さようなら！」という元気な大刀っ子の声が響いています。職員室や教室の入口でみんなあいさつをして、大刀洗小の一日が始まります。同じように、帰る時も元気にあいさつをして、大刀洗小の一日が終わります。元気なあいさつは、とても大事だと思います。

元気よくあいさつをすると、どんな良いことがあるのでしょうか。

一つ目は、初めて会った人ともすぐに仲良くなれることです。みなさん、初めて会う人に対しては、とても緊張しますよね。私ももちろん緊張します。その人に話しかけなければならぬ状況になると、さらに緊張してしまいます。話しかけるなんてできません。しかし、一言「こんにちは」とあいさつをすることで、相手に話しかけやすくなつて、コミュニケーションのきっかけになり、だんだん楽しくなってくるのです。私の通っている大刀洗小学校では、人と人をつなぐ架け橋をつくるために、笑顔で元気よく気持ちのよいあいさつを目指しています。そのために、「なかよしタイム」という活動を朝の会で行っています。教室を歩き回って出会った友達とじゃんけんをして勝った方から友達の名前を呼び、あいさつをします。次に負

けた方が同じようにあいさつを返します。このあいさつ活動のくり返しによって、友達や先生方、地域の方々には話しかけやすくなったり、大きな声で元気よくあいさつができるようになってきたりするので。

二つ目に良いことは、友達がたくさんできることです。私たちは、これから、中学校や高校、大学、さらに社会人になって、いろいろな人に出会うことがたくさんあるでしょう。笑顔で元気のよいあいさつをずっと続けていくと、相手に明るい印象を与えるときも、相手の気持ちも明るく元気にすることが出来ます。自分自身も明るく元気に過ごすことができるでしょう。だから、みなさんも出会った人に元気のよいあいさつをお勧めします。

三つ目に良いことは、世界中の人たちとつながれるということです。世界にはいろいろな国があり、その分だけ言語やあいさつが何種類もあります。世界の人たちとあいさつを交わし、話すと、相手の国の文化など、いろいろなことを知ることができます。しかし、中には、初めて会う人と仲良くなり、友達がたくさんできるといえるのは分かるけれど、あいさつが世界と世界をつなぐということが、すぐには理解できない人もいるかもしれません。確かに、私やみなさんのまわりの人たちにあいさつや話をするだけでは、世界と世界がつながるといえることは想像しにくいでしょう。けれども、外国の言葉、特にあいさつの言葉を少しでも知っておけば、外国の人と話をする機会があった時に、話しかけることができます。今年の九月から、カナダ出身のマリア先生が大刀洗小で外国語を教えてくださいています。マリア先生は、とても

明るく笑顔が素敵な先生です。私は、「マリア先生となかよくなりたい！」と思い、勇気を出して自分からマリア先生に「ハロー！」と話しかけました。マリア先生は、「ハロー！」と私の目を見て、笑顔で返してくださいました。私は、マリア先生との心の距離が縮まったような気がして、心が明るくなりました。このように、あいさつは、人と人の心をつなぐ力があります。それと同時に、相手の国の文化などを知るきっかけにもなり、世界と世界がつながることが出来るのです。

笑顔で元気よくあいさつをして、人と人をつなぐ架け橋を少しずつつくっていくこと、これは、いろいろな人たちとコミュニケーションをとる時にとっても必要なことです。あいさつによって地域の、まだ知り合っていない人や世界の人たちとも心を近づけることができ、平和な世の中がおとずれるのではないのでしょうか。まずは、大刀洗町に住む者同士、たくさんの方で、いろいろな人たちとあいさつをして、人と人をつなぐ架け橋を一緒につくっていきましょう。



**身近な問題は世界の  
問題**

大刀洗中学校  
1年 平戸 すみれ

一学期のころ、給食の後かたづけで温食かんを見るたびにがっかりしました。なぜかというのと、いつものように、残食がはいっていたからです。私のクラスでは、給食を減らす時や残す



時は、先生に言わないといけないという決まりがありました。しかし一部の人は先生に言わずに残していました。その時私は「勝手に残したらダメやろ」という気持ちより、「もったいない」という気持ちが大きかったです。

私が「もったいない」と思うのには理由があります。みなさんは知っていますか。世界では、五秒に一人、小さな命が餓死によってなくなっています。私たちの住んでいる日本のように豊かな国ばかりではありません。食べ物がないで困っている国や地域がたくさんあります。そして、それらの国や地域では栄養失調や、それによっておこる免疫力の低下、感染症で、たくさんのお子さんがなくなっているのです。

この事実を知り、このままではいけないと思いました。「きらいだから」という理由で大切な食料を簡単に捨ててしまっている現実をひどいと思いました。捨てている食糧にはたくさん栄養が入っています。私たちが簡単に捨てている食料は、貧しい国の子どもたちにとって何日分の食料になるのでしょうか。

そして、食料を簡単に捨てている問題が身近におこっている。そのこともあってはいけななことだと思いません。私がこの問題を直すためにしたいことが二つあります。

一つ目は、学校で残食している人に声をかけることです。今までは、その人が残食しているのを知っていたのを見て見ぬふりをしていました。だからこれからはしっかり自分の思っていることを伝えて残食がなくなるようにしていきたいです。

二つ目は、出された食べ物は、残さずに食べるといことです。今、自分が、あたりまえに

食事ができている環境に感謝して残さずに食べたいと思います。

私はこの作文の終わりの部分を書いていた時に母に指摘されたことがあります。それは日本にも食べ物に困っている人はたくさんいるということなんです。調べてみると、「フードバンク」という言葉が出てきました。

「フードバンク」とは、「食料銀行」のことを意味する社会福祉活動で、まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を食べ物に困っている施設や人に届ける活動のことだそうです。日本でこのような活動が行われていることにびっくりしました。それと同時にこのような活動を行わないといけないほど、日本にも食べ物に困っている人がいるんだな、と考えさせられました。

世界の問題、さらには日本の問題。「残食」というテーマがこんなに深いものだと分かりました。私は、この問題を「ユニセフ」や「フードバンク」などの団体や活動に任せっきりせず自分のできることからやっていきたいです。身近なところから残食を減らし、世界の大きな問題にならないようにしていきます。食べ物に困っている人が一人でも少なくなりますように。



## 人を助けること

大井洗中学校

2年

吉田

晃輝

七月五日九州北部を豪雨がおそいました。そ

の豪雨で朝倉市や東峰村は、大変大きな被害を受けました。特に山の近くの家屋や川付近の建物は、土石流や土砂崩れ、川の増水によって家が流されたり、流木による被害を受けたりしました。そこまででなくても、家の中や周りに土砂がたまったり、床が浸水したりなどで大変な状況になっていると、ニュースで何度も見えました。

そのような場所に、僕達野球部は、夏休みにボランティアに行くことになりました。

ボランティアとして作業する場所に行く道の途中で、僕は初めて被害の大きさを実感しました。道の端々には、高く積み重なった土砂の山がたくさんありました。また、川岸には流木や屋根のかわらや土砂などが大量に、散らばっていました。この光景を見て、僕は一瞬のうちに全ての物が無残にも破壊されるのはとても恐ろしいなと思いました。

そうして、僕達が作業する場所に着きました。その辺りも、大きな被害を受けていました。あちらこちらに、たくさん土砂が積み重なっていました。また、山のほうを見ると、木が一切なく、崖になっていて岩肌が見えている部分があり、その下のほうには土砂や木々が川のように連なっていました。それは、今まで見たことのない信じられない光景でした。

そんな場所に、人が住んでいた民家がありました。その民家の周りや家の中の土砂を外に出す作業から、僕達のボランティアが始まりました。その作業はかなりきついものでした。僕は、くわやスコップ、一輪車を使ってやりました。だけど、土砂がまるで山のようにたくさんあって、なかなか減りませんでした。土が固



まっすぐに、掘って運ぶまでがとても力が必要でした。それは、ものすごい重労働で、野球の練習なみにきつかったです。その後は、汚れた壁を水で洗い流してきれいに行ったり、風呂場や洗面所にあった土砂を外に出して磨いてきれいに行ったりしました。

そうして、やっとボランテニアの活動を終えました。僕達が作業する前よりかなりきれいにすることができました。初めてのボランテニアは思ったよりもきつくてとても疲れました。だけど、民家の方が少しでも笑顔になってくれてよかったです。

このような体験を通して、僕は困ったときに人を助けることはとても大事なことだと感じました。ボランテニアが終わり帰るときに、その民家の方から

「ありがとうございます。助かりました。」  
と言われたときはきつかったけれど、少しでも役に立つことができたと思うと、うれしかったです。人を助けることは、相手だけでなく自分にもプラスになるのだと思います。

僕が困っているときは、友達が助けてくれます。だから、学級や学校でも誰かが困っていたら、声をかけたり手伝ったりしていきたいと思っています。また、復興支援のボランテニアに行く機会があったら、ぜひ、行きたいと思いました。

そして、これから人が人を助ける、助けられたいら感謝する、というお互いを尊重する関係づくりをしていきたいと思っています。



## 平和の空のもとに

大刀洗中学校  
3年 平田 椋香

今年もこの季節がやってきました。夏の甲子園、全国高等学校野球選手権大会です。私は家族が野球を好きなこともあり、幼い頃から毎年見えています。今年も全国四十七道府県の四十九代表校が熱い戦いを繰りひろげました。

また、甲子園と同時にこの季節がくると、戦争のことが浮かんできます。夏の甲子園のことについて調べると夏の大会は、一九一五年から毎年開催されています。その中で一九四一年から一九四五年までの五年間開催されていない年がありました。それは日本が第二次世界大戦の時に、多くの人々は軍人として戦地へ行きましました。この戦争によって優れた選手も命を亡くしました。一体日本は、いや世界中の人はどれだけ優秀な人達を亡くしたのでしょうか。戦地に行った人達には、小説家、スポーツ選手など夢をもっている人達がたくさんいました。本当なら甲子園に出て夢を叶え、幸せになっていたかもしれません。それなのに戦争によって、多くの人達の夢、幸せ、命、全てを奪ってしまいました。

人には、夢があり、幸せがあり、命があります。同じ夢、同じ幸せを持つ人はたくさんいます。しかし、この戦争によって自分の意思とは違う所で命が絶たれてしまいました。

たとえ、国を守るための戦争でも命が簡単に

なくなることは私は違うと思います。人の命、人生を奪う権利は誰にもありません。そういうことを考えると私は今、とても幸せな環境にいると思います。県大会が終わるまでは毎日がテニス中心の生活でした。上手になって勝ちたいと思うなか、厳しい指導やきつい練習で行きたくない時、したくない時もありました。しかし、夢をもって命を失った人々のことを考えると、夢をもつと頑張れたのではないかと思いました。

平和の空のもと。私達は今、夢があり、それを叶えようと頑張っています。平和の空のもと。私達は今、したいことができ、多くのことに恵まれていて幸せです。平和の空のもと。私達には、何よりも大切な命があります。

そして来年の夏を迎える甲子園は、第百回の記念大会です。通常の四十九校に七校を加え、史上最多の五十六校で行うことが決まりました。ここ福岡県からも二校が出場することが決まっています。世界中のどの国でも、争いのない平和の空のもとに第百回全国高等学校野球選手権記念大会が開催されることを願います。



# ウォーキング大会

大堰校区民会議  
秋吉 朋恵

10月28日(土)、第17回大堰校区ふれあいウォーキング大会を開催しました。当日は、あいにくの雨模様で、大堰小学校体育館でレクリエーション大会となつてしまいました。総勢130名の方にご参加いただきました。レクリエーションは、朝倉市より矢野先生をお招きし、予定していた時間を大幅に過ぎてしまうぐらい盛り上がりました。中学生ボランティアも受付など、たくさんご協力をいただきました。

また、大堰交流センターの調理室では、レクリエーションが行われている間、8名のボランティアと中学生ボランティアで毎年恒例の豚汁作りが進められました。この豚汁は、毎年楽しみにされている方も多く、大きな鍋でたくさん作ります。

加えて、豚汁を食べた後は、お楽しみ抽選会がありました。今回は、例年に増して景品を用意し、たくさんの方に当たるようにしました。番号が呼ばれるたびに、歓声とため息が飛び交う会になりました。

最後になりますが、区長様、第3分団の皆様、小学校の先生、地域の皆様、炊き出しボランティアの皆様、中学生ボランティアの皆さんのご協力で無事終了することができました。今後もこのウォーキング大会が、地域をつなぎ、ふれあいの輪を広げる行事となることを願っています。



# 中学生ボランティアに思う

本郷校区民会議  
会長 岩崎 耕市

本年度本郷校区育成会行事において中学生ボランティアの参加が多く大変助かりました。

8月26日のふれあい祭りでは、受付・出演者の誘導案内・楽しみ会の手伝い、11月18日の歩こう会ではスタッフジャンパーを着て各区の人員把握・誘導・弁当配布・レクリエーションの手伝い。1月16日のもつつき大会では小学生時代に戻ったかのように楽しく各担当の手伝いをしました。その他、地域においては春秋の陣屋川清掃・環境保全美化運動・ノーポイ運動等に参加しました。

中学校の配慮による午前中のクラブ活動の中止により多数の生徒が参加してくれました。相撲の練習では、上半身裸で土俵に上がり胸を貸している姿を見て、たくましさを感じました。

自分のなすべきことを立派に成し遂げて、周囲に喜びを与え、満足感と充実感を感じているようでした。

これからも人生を楽しく明るさを無限に伸ばしていこうとする積極的な姿勢を続けてください。期待しています。ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。





# ふれあいハイキング

大刀洗校区民会議

平田 勝則

今年のふれあいハイキングは、秋たけなわの10月28日、久留米市北野町のコスモス・パークに初めて行く予定でしたが、あいにくの雨で、去年と同じように体育館での遊戯となりました。

しかし、児童たちにはがっかりした様子は少しも無く、単純なジャンケン遊びに勝つたびに、大喜びです。1年生から6年生までの60名の児童が、何組かに別れて、ボール渡し競争に目をかがやかせ、縄跳びではタイミングを合せて跳び、タイミングが合わずに足に引っかけたりと、元氣よく動きまわりました。こんなありふれた遊びでも、一生懸命楽しむことのできる、子どもはまさに遊びの天才です。

なお、当日は中学生になった卒業生たち（コミュニティ・スクール）が手伝いに来てくれて縄跳びの縄を回してくれました。中学生たちのおかげで、役員や保護者は温かく見守るだけでした。恒例のビンゴ・ゲームもあり、有意義なひとときを過ごしました。



# 「もぐらうち」を体験

菊池校区民会議

近藤 和広  
柳 邦雄

菊池校区健全育成校区民会議の事業として、今年度は「歩け歩け大会」、「もぐらうち作り」と「もぐらうち」を実施しました。

平成29年11月4日に行ったのは「歩け歩け大会」。菊池小学校から筑前町の多目的運動公園を目指しました。

伝統行事部が担当する「もぐらうち作り」と「もぐらうち」は、平成30年1月13日に開催。九州地方に伝わる新春の伝統行事を子どもたちに体験してもらおうと毎年行っていて、今年度は同小学校の児童120名が参加しました。

まずは同小学校体育館で、竹、稲わら、紐を使つてのもぐらうち作り。作り方の説明を受けた後、各自がもぐらうち作りにチャレンジ。竹の先端を折り曲げてから稲わらを添え、その部分に紐を巻きつけます。親子仲良く作つたり子どもたちだけで懸命に作つたりしていました。

出来上がったら各自運動場に向かい、もぐらうちを体験。全員がそろつたら、「14日のもぐらうち、ねぎだれ、けーだれ、打ちまくれ」の掛け声に合

わせてのもぐらうち。元氣よく竹を振り下ろして、もぐらを追い出しながら無病息災を願いました。

もぐらうちの終了後は、おいしいせんざいを頂き、体を温めました。





## 親子を楽しむ!!

# まなビィ講座



『家庭の日』と親子対象の講座『まなビィ』とのコラボ企画、親子を楽しむ！まなビィ講座。平成29年度は4回の講座を開催しました。

### 第1回

## 親子で考えるお金の話 おこづかい帳を つけてみよう

平成29年7月16日(日)開催。

福岡県金融広報委員会金融広報アドバイザーの、近村秀子さんを講師にお招きして、「おこづかい(お金)」について、親子で一緒に学びました。先生からは、お金について考えるには自分でおこづかい帳をつけ、本当に必要なものを考える時間が必要と、教えていただきました。

毎月第3日曜日

## 家庭の日

家庭の日(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしましょう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家族を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

### 第2回

## 日本の伝統工芸 つまみ細工づくり

平成29年11月25日(土)開催。

つまみ細工とは和服にあう髪飾りが代表的で、日本の伝統工芸品です。参加者の方はつまみ細工づくりは初めてということでしたが、みなさん上手に作っていました。お母さんが子どものサポートをしている姿、お父さんが「こうした方がいいよ」など、アドバイスしている姿も見ることができ、とてもほほえましかったです。

親子でのものづくりは自然と会話も弾み、笑顔になります。家庭でも親子で色んなことにチャレンジしてもらいたいと思います。



## 第3回 『やってみよう!お片付け』 ～片づけなさい!という前に・・・～



平成30年1月28日(日)開催。

インフルエンザの流行時期で欠席もありましたが、子どもたちも元気に参加してくれました。内容は座学と、実際に物を分類して整理する体験もあり、あっという間の1時間でした。

講師の方の、「片付けに正解はありません。自分が使いやすいように整理することが長く続くコツです。」との言葉が印象的でした。親の立場としてはついつい言うてしまう、『片付けなさい』という言葉、講座が終わって「お片付けに言葉がけが大切だと改めて知りました。」「親の意見を押し付けずに一緒に取り組みたいです。」と、保護者の方から感想を頂きました。片付けだけに限らず、親子で気持ちよく生活ができるヒントを学んだような気がしました。



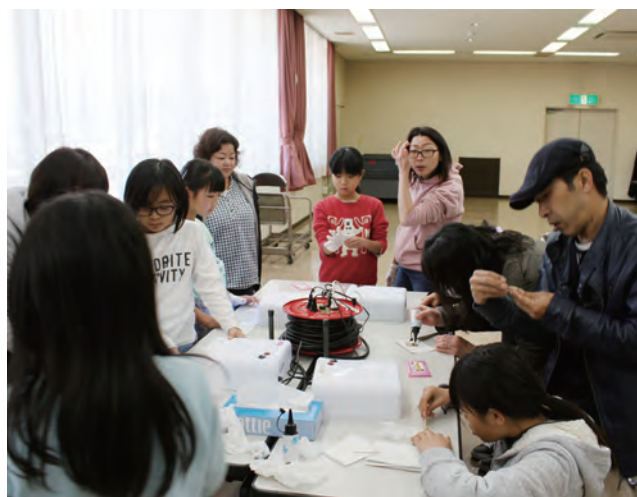
## 第4回

### 『レジンでつくる アクセサリーチャーム』

平成30年3月17日(土)開催。

毎回多く寄せられる意見、「レジンでアクセサリーを作りたい。」をテーマに選びました。

ただ作るだけでなく、親子で同一のテーマを考えてもらい、そこからどういったものを作るかの話し合いをしてもらいました。親子の真剣な話し合いがおこなわれていました。



## 編集後記

家の近くにある信号機の無い横断歩道で、登校する児童をサポートする「子ども見守り隊」を始めて1年4カ月。元気な子、ちよつとうつむいた子、いろんな子がいます。

3月23日は、学年最後の日となる修了式。いつものように横断歩道を渡るときに「おはようございます」と声を掛けると、「1年間、ありがとうございますました」とお礼の言葉を言ってくれた児童がいて、心が温かくなりました。

健全育成の第一歩は、地域で子どもたちを見守ることではないでしょうか。

(近藤和広)

#### 【編集委員長】

菊池校区 近藤 和広

#### 【編集委員】

大堰校区 四ヶ所喜俊

本郷校区 秋山 裕美

大刀洗校区 大場 邦子

菊池校区 久保山美奈子

事務局長 柳 秀夫

藤吉 邦雄

良子